



FOCUS 01

未来を創る学びに挑む

左から
栗山・千々岩・高瀬

我が国の教育制度が社会の発展の原動力となってきた一方、先行き不透明で予測困難な時代が到来しています。少子化の進行により深刻な人口減少が続く中でも、不登校児童生徒などは増加を続け、ヤングケアラーや貧困など、子供の抱える困難は多様化・複雑化しています。デジタル技術やデータを活用した教育価値の創出も不可欠となり、かつてないほど「未来を創る学び」の在り方が問われる中、3人の想いを語ります。

千々岩 日本や社会の未来像は、どのようにあるべきか。その未来を創る教育の姿を、どのようにデザインしていくべきか。そして、描いたデザインを具現化する施策を教育行政のプロとしていかに立案し、具体的に実行に移すか。私たちは、この使命の下、エキサイティングで、時に緊張感、しかし笑顔も絶えない、そんな環境の中で業務に当たっています。

そして、今、我々初等中等教育局のメンバーは、日本の教育が培ってきた力を受け継ぎながらも、「未来」を見据え、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するという大目的を、全国の先生方や関係者と共に前に進めるべく、日々奮闘しています。

皆さんが小学校・中学校に通われてい

た時と比べても、学校の姿は大きく変わっているはず。例えば、今や「1人1台端末」は、未来の学びを実現するための必須アイテムになりました。しかし、我々は挑戦を続けなければならない。やらねばならないことは山積しています。

生成AIの進化は、将来の「学び」を根本的に変える可能性もあります。各国が「何を学ぶか」「どのように学ぶか」についての議論や検討に凌ぎを削る中、日本の学校の教育内容・指導方法を、どのように進化させていくか。

これまでも世界的に高い評価を得てきた日本の教師。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するための最大の主役も教師。しかし、多忙化が社会的に大きな課題となっています。教師が教師でなければできないことに集中し、教育の質を更に向上させることができるような環境をいかに構築するか。

公教育の充実、将来世代の所得向上、子育て家庭の負担軽減

等を通じて、少子化対策にも寄与するもの。「国家百年の計」たる公教育を支える予算をどのように実現するか。

挑戦しなければならぬ課題を挙げれば枚挙に暇はありませんが、未来を創る学びの構築を目指し、教育を巡る諸課題に向き合い、行政としての解を出すべく、全ての政策ツールを駆使しながら、時に厳しい議論を乗り越え、何より子供たちの笑顔のため責任を果たす。このために、我々は、文部科学省で業務に当たっています。

栗山 我々が生きる日本社会は、様々な意味での多様性が顕在化する一方、少子高齢化が急速に進み、さらに人工知能や生物工学といった我々自身が生み出した知や技術によっても不連続的にその姿を変え続けています。今を生きることは、もはや「激動」という言葉では捉えきれない広さと深さを持つ変化と向き合うのみならず、人間という存在がこれからどこに向かうのか、という問とも向き合うことを意味しています。

Message from 千々岩

我々文部科学省の担当する教育・科学技術・文化・スポーツ。この各所掌を貫く共通項は「人」だと思っています。この国を、社会を、未来を支えるのは「人」。そんな「人」に対して、私たちはどのように貢献できるか。考え、考え、考え抜いて、でも給料までもらえてしまう。私はこんな幸せな仕事はほかにないと思っています。また、フィールドは複層的に広がっています。自分の経験のみで言っても、霞ヶ関のみならず、福岡県教育委員会で勤務し、学校や地域の方々との具体的な課題に膝詰めで議論したことも、スイスのジュネーブに駐在し、他国と著作権交渉に当たったことも、大臣秘書官として国会・政治のダイナミズムを体感することもありました。垣根なんてありません。そんなここ文部科学省で、情熱と知恵、胆力、温かさを持ちながら、私たちと一緒にチームで挑戦する。そんな皆さんに、是非入省いただきたいと思っています。

Message from 栗山

公教育システムが揺れ動いている今こそ、あなた自身の手で、この国の50年、100年を創り上げる社会基盤のアップデートに関わる絶好のチャンスだと思います。その中では、省内のみならず、都道府県、市町村、学校現場、民間、他省庁、政治といった多様なアクターと関わりながら、様々な施策を創り出すことが必要で、魅力的なプロセスである一方、理想を容易に実現できるわけではありません。しかし、だからこそ、同じ志、熱量を持ち、知性溢れる文部科学省の仲間と共に、ドンドンと音を立てて壁にぶつかり、乗り越える醍醐味があり、そこには常に成長があります。そんな文部科学省という舞台で、皆さんという新しい仲間をお迎えすることを楽しみにしています。

そんな時代に生まれた子供たちは、用意された答えや価値観はない中、それを自ら創り上げつつ、幸せに生きるという、難局ともチャンスとも言える状況と直面します。

では、国は何をなすべきか。昭和の時代には、例えば「三種の神器（洗濯機・冷蔵庫・テレビ）」等の物質的豊かさの実現であったかもしれませんが、令和の今は、多様で不透明な状況の中で、一人一人が直面する状況を自らの意思で変え、乗り越えていけるよう、言わば「三種の資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）」を身に付け、自分自身と社会の未来を切り拓いていける環境を構築することだと確信しています。

そのために必要なのが資質・能力を育む「学び」であり、文部科学省は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を掲げ、学びの変革のため、最大の社会インフラとも言える「学校」、学びのデザイナーである「教師」の在り方と向き合い、デジタル技術も活用しつつ改革を進めています。

この公教育システムは、時代の変化や学校現場のリアルな課題に対応してアップデートが続き、それはときにラディカルなものにもなるでしょう。その中で、常にそのグランドデザインを描き、実現に必要な施策を具現化するというダイナミックな営為は、文部科学省でこそできる仕事であると同時に、文部科学省の責務であり、関係者と一体となって実行する大事業です。

私自身は近年、初等中等教育政策の総合調整、教師の処遇改善、働き方改革の更なる推進、指導・運営体制の充実、京都府教育委員会への出向中には、企業や大学と連携した課題解決型学習の推進、一人一人の学力の伸びや非認知能力の変容にアプローチする独自の学力調査の導入といった仕事でその営為に関わってきました。

「学び」を社会の中心と捉えて文部科学省で仕事をすることは、時代の最前線とせめぎ合いつつ、最高の仲間と共に社会と世界に大きな貢献ができるかけがえのない日々を過ごすことだと思っています。
高瀬 出向先の福島県で出会った、被災した故郷の復興のために、自分なりの視点で課題を分析し、行動を起こす子供たち。スーパーサイエンスハイスクール

で出会った、自分なりの視点で研究を進め、新たな科学の扉を開こうとする子供たち。このような子供たちのことを思い起こすと、元来、子供たちは未来を創る力を潜在的に秘めていると感じます。

私たちが、どんなに知恵を絞っても、完全に未来を予測することはできません。新型コロナウイルス感染症の感染拡大、国際情勢の不安定化、生成AIの登場等、数年前には現実には起こるとは思っていなかった出来事が次々と起きています。

子供たちがこうした予測困難な社会で生きていくことを考えれば、様々な変化を受け身の立場で対処するのではなく、むしろ、自分にとって、社会にとって、望ましい未来を自ら創っていくことができるよう、必要な力を着実に身に付け、最大限伸ばしていくことができる環境を整えていくことが、私たちの使命だと思っています。

そのために考えていくべき課題はたくさんあります。例えば、教室の中の子供たちはとても多様です。不登校傾向の子供、発達障害の可能性のある子供、特定分野に特異な才能がある子供等、一人一人にまったく異なる特性や背景があります。一人一人が自らの力を最大限に伸ばすためにはどうするべきか。また、子供たちのために日々努力されている教師の勤務状況を踏まえたときに何が必要なか。もちろん、日本の初等中等教育段階はPISA（OECD生徒の学習到達度調査）の結果等を踏まえても、世界トップレベルであり、こうしたこれまでの学校教育の良さを大切にしているという視点も欠かせません。

現場の具体的な取組を学び、様々な有識者の知恵を伺い、過去の制度から真摯に学び、冷静に影響を分析しながら、変えていくべき点は大胆に変え、机上の空論ではない具体的な改善を図っていく、これが私たちの仕事だと思っています。

Message from 高瀬

霞ヶ関の仕事のやりがいに対する懐疑的な報道がなされることがあります。確かに大変なことはゼロではありません。それでも、多様な子供たちや現場の先生方、有識者の方々等と出会い、信頼できる上司や同僚と共に、より良い社会を創っていく文部科学省の仕事には、大変さを上回るやりがいがあると思っています。

私たちが取り組む行政課題は、様々な課題が複雑に絡み合っていて、何か一つの政策によって、劇的な変化が生じるわけではないこともありますし、成果が見えるまでには時間がかかることもあります。だからこそ、自らが携わった仕事の成果を数年後に肌で感じられたときの喜びはより一層大きなものです。皆さんと一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

初等中等教育局企画官

千々岩 良英 Chijiwa Ryohei

平成14年入省（法律）

平成14年 4月	文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
平成16年 7月	同 高等教育局大学振興課大学改革推進室
平成17年 4月	同 高等教育局大学振興課大学改革推進室専門職
平成18年 4月	同 高等教育局高等教育企画課国際企画室企画係長
平成19年 6月	同 大臣官房人事課計画調整班専門職（人事院留学：カリフォルニア大学ロサンゼルス校）
平成21年 7月	同 科学技術・学術政策局基盤政策課専門官
平成23年 4月	福岡県教育委員会教育企画部企画調整課長
平成24年 4月	同 教育振興部高校教育課長
平成25年 4月	文部科学省初等中等教育局教育課程課課長補佐
平成27年 4月	同 高等教育局私学行政課課長補佐
平成28年 7月	外務省在ジュネーブ国際機関日本政府代表部一等書記官
令和元年 8月	スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課専門官 （併）内閣官房副長官補付 （命）内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局局員 大臣官房付（併）内閣官房 （命）東京オリンピック・パラリンピック担当大臣秘書官事務取扱
令和 3年 2月	大臣官房政策課企画官 （併）大臣官房会計課副長
令和 4年 4月	現職
令和 5年 4月	現職

初等中等教育局初等中等教育企画課課長補佐

栗山 和太 Kuriyama Kazuhiro

平成19年入省（法律）

平成19年 4月	文部科学省高等教育局大学振興課
平成21年 7月	同 初等中等教育局初等中等教育企画課
平成22年 4月	同 初等中等教育局初等中等教育企画課専門職
平成24年 4月	同 研究開発局開発企画課課長係長
平成25年 4月	同 初等中等教育局初等中等教育企画課企画係長
平成26年 8月	同 初等中等教育局初等中等教育企画課専門官（併）企画係長
平成27年 4月	同 大臣官房総務課専門官 （命）大臣官房総務課法令審議室審議第三係長 （命）大臣官房総務課法令審議室審議第二係長
平成28年 4月	（命）大臣官房総務課法令審議室審議第一係長
平成29年 4月	（命）大臣官房総務課法令審議室審議第一係長
平成30年 4月	京都府教育委員会指導部学校教育課長
令和 3年 4月	文部科学省初等中等教育局財務課校務改善専門官
令和 4年 4月	同 初等中等教育局財務課課長補佐
令和 5年 4月	現職（併）地方教育行政専門官

初等中等教育局教育課程課学校教育官

高瀬 智美 Takase Tomomi

平成21年入省（法律）

平成21年 4月	文部科学省生涯学習政策局政策課
平成22年 4月	同 生涯学習政策局政策課教育改革推進室
平成23年 7月	内閣官房東日本大震災復興対策室
平成24年 2月	復興庁総括官付参事官付
平成24年 4月	復興庁総括官付参事官付主査
平成25年 4月	文部科学省高等教育局医学教育課企画係長（併）医師養成係長
平成27年 4月	内閣官房教育再生実行会議担当室主査
平成28年 7月	文部科学省初等中等教育局教育課程課企画調査係長
平成29年 4月	同 初等中等教育局教育課程課専門官
平成30年 5月	同 初等中等教育局教育課程課課長補佐
平成31年 4月	福島県教育庁教育総務課長
令和 4年 4月	文部科学省大臣官房総務課行政改革推進室室長補佐 （命）大臣官房改革推進・コンプライアンス室室長補佐
令和 4年 8月	同 大臣官房総務課課長補佐 （副大臣秘書官事務取扱）
令和 5年 9月	現職



FOCUS 02

左から
室田・迫田・鈴木

世界を変えるスタートアップの創出に向けて

文部科学省では、大学等の最先端の研究成果を活用したディープテック・スタートアップ^(注1)の創出に向けたプロジェクトや、スタートアップの担い手を育成するアントレプレナーシップ教育^(注2)を推進しています。これまでになく技術や発想で、世界を変えるようなイノベーションをもたらす「強い」大学発スタートアップを生み出すエコシステムをどのように作るのか、アントレプレナーシップをどう身に付けていくのか、このような問いかけに対して、3人それぞれの思いをお伝えしたいと思います。

スタートアップとは

鈴木 世界的にはイノベーションの担い手はスタートアップと言われています。スタートアップとは一般的に、事業成長と社会課題解決を両立し、投資を受けながら急成長する新興企業と定義されています。不確実性が大きく未来予想が難しい「VUCA（ブーカ）」の時代にあっては、リスクをとって機動的に動ける主体が求められ、大企業がスタートアップからイノベーションの種を取り込み、その後の製品化等を担う協業＝「オープンイノベーション」が世界の潮流となっています。

Message from 迫田

これまで、全国の研究者の方や企業の経営者の方にお会いして成功要因や政策要望等をインタビューし、徹底した現場主義で生の声を聞くことを心がけ、将来の社会を支える人材・産業を育成していくための政策を考えてきました。ここでは、お会いした方々の顔や声を常に思い浮かべながら、現場感のある政策にすることを心がけています。各分野でご活躍されている研究者や経営者の方々との出会いは刺激的で自分の成長にもつながっていると実感します。文部科学省で得られた一番の財産は、多くの人々との出会いです。

自分のアイデアを具体化していく過程は創造的で大きなやりがいがあります。多くの関係者と調整しながら、同僚達と何回も議論しながら、新たな政策を作り上げていきます。そして、政策が上手くいき、現場から感謝の声をいただいたときは何よりも嬉しいですね。

室田 最近は、ペプチドリーム株式会社や株式会社ispace、株式会社ユーグレナ等、上場した大学発スタートアップの名前をよく耳にするようになりました。社会課題解決を掲げるスタートアップも増えてきた印象です。他方で、日本は諸外国に比べてその経済規模に照らしてスタートアップが少なく、投資額や起業活動率もまだまだ少ないと聞きます。

鈴木 令和4年には「スタートアップ育成5か年計画」が策定され、スタートアップの創出に向けた①人材・ネットワークの構築 ②資金供給の強化・出口戦略の多様化 ③オープンイノベーションの推進の3つの柱を一体的に推進することとなりました。

迫田 文部科学省でも、「スタートアップ育成5か年計画」という大きな潮流の中で1,000億円規

模の「大学発新産業創出基金」を創設し、従来よりも一歩踏み出した形で支援をスタートさせたところです。まだこれからですが、現場の方々からは使いやすくなったという声も聞こえてきています。我々の政策を通じて支援したスタートアップが、将来、世界を変える企業に成長したら嬉しいですね。

なぜ文部科学省がスタートアップ支援？

室田 文部科学省でスタートアップを担当していると聞くと、「教育や研究ではないの?」と思われるかもしれません。

鈴木 文部科学省では、これまでも大学の研究成果を論文という形で提供するのみではなく、社会に貢献する取組の一つとして、その成果を企業に移転したり、スタートアップにつなげていくことに注力してきました。「大学と企業をつなぐ」

Message from 鈴木

政府の人間が政策という形にして動かしていかなければ、国全体としてはなかなか変わりません。そのためには、机上の空論で終わらないよう、最先端の方々のお話を聞いたり、国内外の事例を調べたり等、常に学び続けることが重要です。異動のたびに一から知識を身に付ける大変さがありますが、自分の世界が広がり、それがより良い国づくりにつながっていく点は、国家公務員として仕事をする大きな魅力だと感じています。

という簡単に聞こえますが、存在目的・行動原理の異なる両者をつなぐことはとても大変であり、地道な努力と精緻な施策が求められます。

迫田 スタートアップを支える人材育成も文部科学省の重要なミッションです。文部科学省では、アントレプレナーシップとして、「急激な社会変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神」を位置づけており、「実際にイノベーションを起こせるような人材を育成する」ことに取り組んでいます。これは起業家を育てるというだけでなく、既存企業の中で新規事業をつくることや、革新的な技術の開発、地域課題の解決などにも発揮される幅広い力であり、多くの人たちに身に付けてもらいたいです。対象を大学生だけでなく高校生以下にも広げて取り組んでいますが、まだまだ足りません。

室田 実は、私自身、研修制度を利用して宇宙スタートアップの株式会社 Synspective に1年間出向していました。スタートアップに飛び込んでみて、機動力の高い意思決定・経営により、優れた技術や挑戦的なアイデアをいち早く市場投入できるという強みを持ったスタートアップのおかげで、世界が変わるスピードが加速していることを再認識しました。短期間集中で挑戦心を持って取り組むということに関しては、異動のタイミングの早い行政の実務に共通する部分も感じ、また、国家規模のオペレーションという強みを持つ行政とスタートアップがそれぞれの強みを活かせるように、双方の良き理解者でありたいという気持ちを強く持ちました。

キャリアの多様化とアントレプレナーシップ

室田 人材育成の話でもありましたが、アントレプレナーシップのある人材の育成はイノベーション創出の基盤となる重要な施策だと思います。アントレという言葉は流行語大賞にしたいですね！是非お二人からのアツイ思いをお願いします。

鈴木 学術研究機関である大学では最先端の科学技術や知が育まれていたものの、実社会の中でいかに活用していくかという「社会実装」の視点が十分とは



言えなかった側面がありました。そこで、「知を生み出す場所」と「社会のニーズ」とのハブになるような人材を育成し、大学の外にいる企業や地域のステークホルダーと一体となって社会実装に取り組める機会を増やそうとしています。我々が現在推進している形は、大学単体で取り組むのではなく地域ごとに複数の大学が相互連携するコンソーシアム型。地域という枠組みにこだわっているのは、大学だけでなくその地域に根付く各種産業や金融機関、ベンチャーキャピタル等を巻き込むためでもあります。社会との接点を増やし産学官が連携してイノベーションを起こすことが重要と考えています。

迫田 アントレ教育を広め、根付かせていくこともまた重要です。文部科学省では10名の起業家教育推進大使を任命し、講演活動等でご協力いただいています。今後、大使の数を大幅に拡充し、身近な起業家から誰もが名前を聞いたことがある方まで、多様な方々の力をお借りしながら、アントレ教育の機運を高めていきたいと考えています。

Message from 室田

研究現場を元気にするためのあらゆる施策を講じていくためには、一緒に政策を作っていくという現場を巻き込んだ形での政策立案プロセスの実現が不可欠です。迫田室長や鈴木補佐のようなアクティブな先輩方と一緒に働けることが、文部科学省で働くことの一番の魅力だと感じています。国家公務員にも、政策のイノベーターとしてアントレプレナーシップは重要です。ハードな職場ですがやりがいは大きく、自分自身も勉強を重ねつつ日々精進していきます。

大臣官房付（命）科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課産業連携推進室長

迫田 健吉 Sakoda Kenkichi
平成16年入省（理工I）

平成16年	4月	文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課
平成17年	7月	経済産業省通商政策局北東アジア課
平成18年	4月	同 通商政策局北東アジア課企画調整係長
平成19年	6月	文部科学省研究振興局振興企画課企画調整係長
平成20年	7月	同 初等中等教育局参事官付企画係長
平成21年	4月	同 初等中等教育局特別支援教育課専門職内閣府政策統括官
平成21年	7月	同 科学技術政策・イノベーション担当）付参事官（原子力担当）付主査
平成22年	10月	同 政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付参事官（原子力担当）付参事官補佐
平成23年	4月	文部科学省研究開発局地震・防災研究課課長補佐
平成25年	4月	環境省総合環境政策局環境計画課課長補佐
平成28年	4月	内閣府宇宙開発戦略推進事務局参事官補佐
平成30年	3月	文部科学省大臣官房政策課評価室室長補佐
平成30年	4月	同 大臣官房政策課政策推進室室長補佐
令和元年	10月	同 科学技術・学術政策局政策課専門官（併）政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官（革新的研究開発推進プログラム担当）付参事官補佐
令和2年	4月	同 科学技術・学術政策局政策課専門官（併）政策統括（科学技術・イノベーション担当）付参事官（未来革新研究推進担当）付参事官補佐
令和3年	4月	同 科学技術・学術政策局政策課専門官（併）科学技術・イノベーション推進事務局参事官（未来革新研究推進担当）付参事官補佐
令和3年	8月	同 科学技術・学術政策局研究開発基盤課量子研究推進室長
令和3年	10月	同 研究振興局基礎・基盤研究課量子研究推進室長
令和5年	8月	現職

科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課産業連携推進室室長補佐

鈴木 慎司 Suzuki Shinji
平成20年入省（理工IV）

平成19年	10月	文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課
平成21年	4月	同 研究開発局原子力研究開発課
平成22年	4月	同 研究開発局原子力課（併）研究開発局原子力課核燃料サイクル室
平成23年	1月	同 研究開発局原子力課業務係長
平成23年	4月	同 大臣官房国際課専門職（併）外務省国際協力局国際開発協力第三課
平成25年	7月	同 高等教育局大学振興課大学改革推進室大学院係長
平成27年	2月	同 高等教育局大学振興課大学改革推進室室長補佐
平成27年	4月	同 外務省在アラブ首長国連邦日本国大使館二等書記官
平成29年	10月	同 在アラブ首長国連邦日本国大使館一等書記官
平成30年	6月	文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課新興・融合領域研究開発調査戦略室室長補佐
令和2年	10月	同 科学技術・学術政策局政策課国際戦略室専門官
令和3年	4月	同 科学技術・学術政策局参事官（国際戦略担当）付専門官（令和3年1月～令和4年9月 国際派遣：英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省）
令和4年	9月	同 科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課専門官
令和5年	10月	現職

科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課統括係長

室田 優紀 Murota Yuuki
平成28年入省（数理科学・物理・地球科学）

平成28年	4月	文部科学省研究開発局宇宙開発利用課
平成30年	4月	同 初等中等教育局参事官付
平成30年	10月	同 総合教育政策局調査企画課
平成31年	4月	同 総合教育政策局調査企画課企画係長
令和2年	3月	同 科学技術・学術政策局政策課専門職（ベンチャー研修：株式会社Synspective）
令和3年	3月	同 研究振興局学術機関課専門職
令和3年	10月	同 研究振興局大学研究基盤整備課大学研究力強化室研究力強化推進係長
令和4年	4月	同 研究振興局大学研究基盤整備課資金運用企画室企画係長
令和5年	8月	同 科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課専門職
令和5年	9月	現職

（注1）ディーテック・スタートアップ：

科学的な発見や革新的な技術等の優れた研究成果の事業化により、社会・経済に大きなインパクトを与えることができる新興企業（引用：大学発新産業創出基金公募要領）

（注2）アントレプレナーシップ教育：

自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探索したりすることができる知識・能力・態度を身に付ける教育（引用：文部科学省アントレプレナーシップオフィシャルサイト）